

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

たんぼぼ

日付 平成 20年 3月 31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

訪問した時は、ホームの前の庭まで学童達に来て、サッカーボールを蹴っている。学童保育の前の空き地にも、あちこちで子供が色々な遊びをして楽しんでいる。井原市から委託を受けた学童保育事業や在宅訪問介護事業所、居宅介護支援事業所と共にグループホームを運営しているユニークな事業所である。間もなく新学期で50名余りの学童保育の入学式があり、ホームの利用者も出席してお祝いをするそうだ。

利用者の皆さんは、常々このようにして学童と接しており、喜びや心配や怒りもある。「子供が何時も外で遊びよる。男の子と女の子が走り回ったり、喧嘩したり、見ると面白いよ」「あの見守りをしとる人は大変じゃろう。子供は言う事聞きゃせん」と子供の遊びを見ながら家の中でお喋りしている。子供が歓声を上げながら、蹴ったボールが窓に当たる。思わず「コラー」と大声を上げる。子供の様子を見ながら、こちらでもコミュニケーションが成り立っている。

こんな光景を繰り返しながら設立後4年を経過している。代表者と管理者が設立に際して「自分達が年寄りになった時、こんなグループホームがあったら良いね。自分達が入りたい“たんぼぼ”を作ろう」と大きく高い理想を持った。管理者は設立前に職員を集めて、認知症の事やグループホームの運営について、しっかり勉強してから立ち上げた。設立する前に職員間でしっかりと研修してから設立するホームも少ない。設立時のこのような準備もあり、職員のケアの質も意欲も高い。その効果あってか、4年経過しても利用者の重度化が進行していない。

管理者は「4年になると、何事も当たり前になってくるので、初心に戻って全てを見直してみなければならぬ」と兜の緒を締める。「お年寄りの時間を大切に、一人ひとりの生活歴を生かしていこう。日常の業務を作るのではなく、壊して考え直してみよう。このような事を職員会議でも説明しているそうだ。そして「全職員で共感出来る運営をしていきたい」と続けてくれた。事業計画を毎年作り、ケアに対する考え方を職員にも発表してもらって運営会議を開催している。利用者が重度化しているホームを見学したり、どのような対応をしたら良いか、今から研修しておこうとも考えている。職員の研修も大切にしている。

これからの利用者に対するケアの方針は「基本は自然な流れを大切にする。加齢と共に機能低下は当たり前なので、その時の状態に合わせた生活リハビリが良い。無理をするのではなく、自然に変化していきながら、その時を楽しんでもらいたい」と答えてくれた。

職員一人で対応するのではなく、他の職員も関わりながら、最後には管理者が話をし、納得のいく生活を全員にして貰いたいと考えている。よく先を考えた管理者に安心した。

**特に改善の余地があると思われる点**

介護計画や記録から、利用者の生活能力の推移が読み取れる流れを作って貰うと、もっと素晴らしいホームになるのではないかと思った。

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念の作成過程と職員への浸透方法、ホームの将来性に対する考え方を聞くと、全体的な運営にも全く心配するところがない。理想的な姿を見せて貰った。</p> <p>2、全体的に見て…：“癒しと安らぎと喜び”の理念は、共にホームを立ち上げた代表者と管理者が話し合っただけで決めた。開設して4年経過した今もその思いは変わらない。利用者が居て良かったと思えるホーム、職員も働きやすいホーム、自分も年を取ったら入りたいと思うホームを目指し、職員達には何時何があるかわからないので、毎日がターミナルだと考えて、心を尽くしてこうと話しているそうだ。利用者の今の時間を大切に、利用者に合わせて共に過ごそうとしている。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：屋内及び外回りについても十分な空間を取り、ゆったりとした利用者の動きを見ると、何か安心感が察知出来る。子供との関わりによって、アットホームな空間を感じる。</p> <p>2、全体的に見て…：訪れた時は丁度春休み、ホーム周辺では隣接する留守家庭学級の子供達が元気に遊んでいた。「ここは玄関なのよ、お客様だからボール遊び止めなさい、先生が声を掛ける。職員の為に託児所を作ろうから発展して、地域の学童保育所併設のホームが出来た。ゆったり過ごして欲しいとの拘りから、広い廊下とリビングの余裕のある建物や敷地等、ハード面も充実している。「ここは静かなので勉強して下さい」と子供達がホームに来て、利用者と共に過ごす時もある。学童と利用者混合型の新しいタイプのホームである。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：利用者の意思表示や感情表現への対応の仕方や、ケアの基本的な方針も、考えや実行がしっかりしている事を確認出来た。職員全般が共有出来る運営や研修の重要性も認識出来ているので安心だ。</p> <p>2、全体的に見て…：廃用性症候群の為歩けなかった人がホームに来て、シルバーカーで歩行練習するうちに、歩いてトイレに行けるようになった。その様子を見て、家庭では介護出来ないと言っていた家族が引き取る気持ちになり、住宅改修してくれた。ホームでも家での暮らしに向けて生活リズムを整え、家庭復帰出来た。入浴拒否の人が浴槽に入れるようになり、表情が出て来た等、その他にも職員の関わりによって、ホームに来て良くなった事例は多い。開設して4年になるが、利用者達は殆ど状態が変わらず、重度化していない事も、このホームのケアの質の高さを立証している。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：家族や地域に対する交流は積極的に行っており、問題はないが、一つひとつの項目について満足度の限界はないので、より良い関係作りをしていこうとする意欲は伺える。</p> <p>2、全体的に見て、学童保育の保護者達からの口伝えで、ホームの存在は深く地域に浸透し、看板を出さなくても地域の人はホームをよく知っている。幼稚園や小学校との交流もうまくできている。地域行事や幼稚園・小学校行事には全て参加させて貰っている。2つの地域の自治会長と、園長・校長も運営推進会議に出席し、ホームの運営を助けてくれているそうだ。又他のグループホームと職員・利用者共に行き来して互いにより刺激を受けている。開かれたホームの在り方から学ぶべき事はない。</p>		